

都道府県・ 指定都市番号	36	都道府県・ 指定都市名	徳島県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	地理歴史
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>歴史領域科目，地理領域科目について，社会的事象の「歴史的な見方・考え方」や，「地理的な見方・考え方」を働かせ，「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業実践の研究</p>				
学校名（生徒数）	<p>とくしまけんりつわきまちこうとうがっこう 徳島県立脇町高等学校（554名）</p>				
所在地（電話番号）	<p>徳島県美馬市脇町大字脇町1270-2 （0883-52-2208）</p>				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<p>http://wakimachi-hs.tokushima-ec.ed.jp</p>				
研究のキーワード	<p>「単元を貫く問い」 「科目相互の連携」 「ワークシートの工夫」 「指導と評価の一体化」 『地理総合』『歴史総合』を見据えた授業改善</p>				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「単元を貫く問い」を明示した単元構想と地理的・歴史的な「見方・考え方」を働かせる場面を意識した授業実践により，生徒の学習意欲の向上が見られた。 ○ 生徒の躓きや思考の変容の可視化を意識したワークシートの工夫により，指導と評価の一体化や授業改善につながった。 ○ 単元を通して「現代の諸課題」を思考できる教材開発や科目相互の連携，外部機関との連携により，生徒の意識の変化や理解の深まりが見られた。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

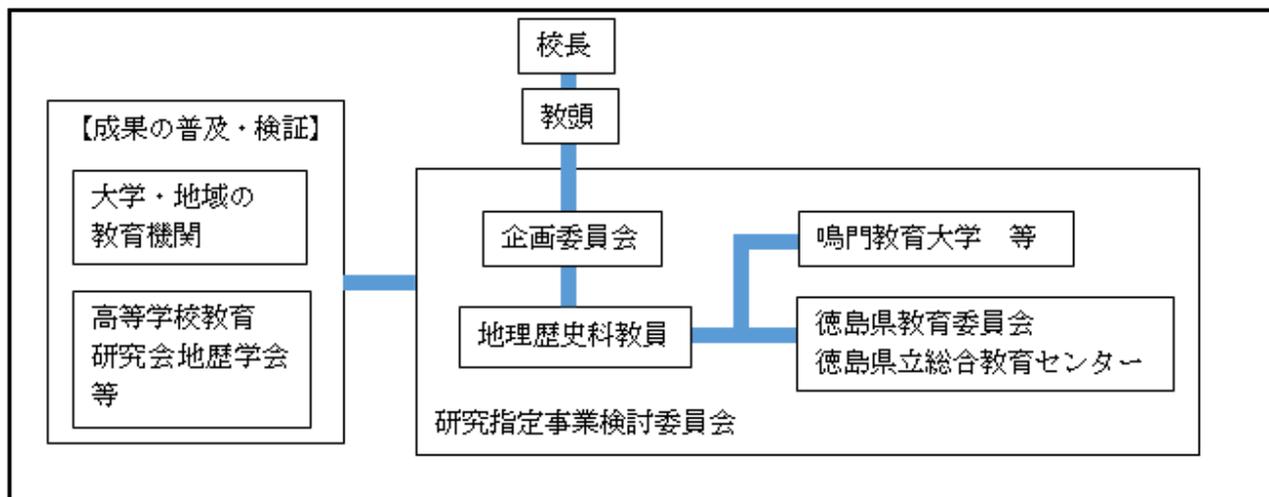
「地理総合」「歴史総合」を見据えた地理歴史科の科目相互の連携を図った授業改善と「問い」を重視した評価の研究

(2) 研究主題設定の理由

本校では，2期目のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された平成27年度から昨年度までの5年間，全教科・科目による「協働的問題解決学習」（生徒・教員が協働し，問題解決を図る学習モデル）の実施とそれに伴うペアワークやグループ活動等の授業改善の取組を実践してきた。地理歴史科においても，SSHにおける取組により生徒の主体的に学ぶ意欲等は高まったが，授業における「主体的・対話的で深い学び」の充実・深化にまでは至っていないのではないかという疑問から，平成30年度からの2年間，教育課程研究指定校事業において，「社会的事象の歴史的な見方・考え方」「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせる場の設定を意識して，「主体的・対話的で深い学び」を達成するための授業改善の取組を中心に「問い」を重視した単元開発の研究を行ってきた。この研究においては，「協働的問題解決学習」の成果を踏まえ，新学習指導要領で示された「地理総合」「歴史総合」を見据えて，地理歴史科科目間での連携を図りながら実践を行い，生徒の学びの意欲が向上する，現代の諸課題との結びつきを意識するようになるなどの成果を上げることができた。

しかし、授業における躓きのある生徒への手立てなど、学習評価を生徒の学習改善に生かすことまでには至らず、課題を残す結果となった。そこで、これまでの研究の継続とさらなる授業改善を目的とし、地理歴史科としての思考力を深めることができるよう、「問い」を構造化した単元構想を行うとともに、生徒の追究・探究する学習過程をどのように見取るかの研究を通して「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」についての評価方法等の工夫改善を行うことをねらいとして研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の方向性や方法の確認（教科会・SSHプロジェクトチーム 4月） <ul style="list-style-type: none"> ※新型コロナウイルス感染症対策のため休校期間（～5月19日） ・ 教職員，生徒対象アンケートの実施及び集計・分析（6月） ・ アンケート結果等に基づく研究の方向性や方法に関する協議、並びに研究に関する指導助言（鳴門教育大学 7月以降随時） ・ 相互授業参観週間に世界史・日本史・地理の各担当者がそれぞれの科目の視点を活用した公開授業の実施（7月） ・ SSH生徒研究発表会及び教育課程研究指定校事業授業研究会 <ul style="list-style-type: none"> 【「歴史総合」を見据えた「世界史A」の授業実践】（9月オンライン） ・ 「地理総合」に向けた授業実践のための事前フィールドワークの実施 <ul style="list-style-type: none"> （世界農業遺産にし阿波地域 9月） ・ 先進校視察訪問（神戸大学附属中等教育学校 10月） ・ 相互授業参観週間での協働的問題解決学習の公開授業の実施【「地理総合」を見据えた「地理B」の授業実践】および検証（11月） ・ 生徒対象アンケートの実施及び集計・分析（11月） ・ 高等学校各教科等教育課程研究協議会地理歴史部会にて研究報告（12月オンライン） ・ 教育課程研究指定校事業研究協議会発表（2月オンライン） ・ 1年間の研究結果とりまとめ及び次年度取組に向けた協議 ・ 事業広報及び情報収集（「徳島県高等学校教育研究会地歴学会」3月） ・ 校内成果報告会（3月）
-------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 科目間の連携を図りつつ「深い学び」を促す授業改善
 - 「歴史総合」を見据えた単元構想
 - 「地理総合」を見据えた単元構想
 - 教科等横断を図る授業実践
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を通じた、生徒の学習意欲や思考力等の変容過程の把握による評価の改善
 - 考査問題等の解答分析
 - 生徒の思考力の変容を可視化したワークシートの作成と分析
 - 生徒の躓きの把握と授業改善
- ③ 電子黒板の活用

(2) 具体的な研究活動

- ① 科目間の連携を図りつつ「深い学び」を促す授業改善
 - 「歴史総合」を見据えた単元構想

「歴史総合」を見据えた3年生の「世界史A」，「日本史A」の授業では，大項目A「歴史の扉」の(1)「歴史と私たち」，及び大項目B「近代化と私たち」の(2)「結び付く世界と日本の開国」の単元構想と授業実践を行った。単元構想の際に行ったことは，1)各授業のねらいや働かせる「見方・考え方」を明確にしたこと，2)ねらいに基づいて各事象の学習で用いる資料の選定を行ったこと，3)資料の選定においては，世界史・日本史両方の資料を持ち合うこと，読み取りやすい中学校の教材や現代の諸課題と結び付く教材を用いること，徳島県立図書館と連携することなど，資料の充実を図った。また，歴史の事象を引き起こした要因を地図や地理情報を活用して考察させるなど，時間認識だけでなく空間認識についても意識させた。
 - 「地理総合」を見据えた単元構想

「地理B」の授業では，「世界農業遺産にし阿波地域」を題材に，大項目C「持続可能な地域づくりと私たち」の(2)「生活圏の調査と地域の展望」の単元構想と授業実践を行った。「単元を貫く問い」を設定し，各授業でどのような見方・考え方を働かせるかを明確にするとともに，地域に住む住民や役場の方など外部人材との連携により，地域の課題についての理解を深め，解決に向けての意欲を高める工夫を行った。また，日々の授業においても地理と歴史を融合したワークシートを作成し，空間認識だけでなく時間認識についても意識させる授業実践を行った。
 - 教科等横断を図る授業実践

これまでの研究成果を踏まえて年間授業計画（単元構想）を見直し，教科間連携を図る授業の実践事例を増やすことに努めた。今年度は，地理と化学，日本史と美術などの実践を行った。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を通じた，生徒の学習意欲や思考力等の変容過程の把握による評価の改善
 - 考査問題等の解答分析

歴史領域科目，地理領域科目の全ての科目で初見資料を複数題用いた記述問題を出題することによって，生徒の「思考・判断・表現」を見取ることができるよう，定期考査問題の改

善を行った。また、地理歴史科教員で科目の枠を超えて連携協議しながら模範解答や採点基準の作成、評価を行った。

○生徒の思考力の変容を可視化したワークシートの作成と分析

ワークシートに、単元のメインクエストとサブクエストを提示した上で、生徒が授業の始めに考えたり予想したりしたことを記述させ、グループ活動等を通じて自らの思考が変容したことや、自分の考えと他者の意見を区分できるように工夫したワークシートを作成した。

○生徒の躓きの把握と授業改善

ペーパーテストやワークシートの記述等から生徒の躓きを把握し、問い方や説明の仕方を変更するなど、授業改善に役立てた。

③ 電子黒板の活用

授業の進行がスムーズに行えるようにスライドを活用したり、生徒のワークシートの記述部分を電子黒板に投影したりすることで、全体で共有を図った。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 地理歴史科において明確な「育てたい生徒像」を設定することで、生徒に身に付けさせたい力を常に意識した実践を行うことができた。
- 「歴史総合」、「地理総合」を見据えた授業の中で、複数の教員による資料と「問い」の検討やチームティーチングを行うことにより、「歴史的な見方・考え方」と「地理的な見方・考え方」を働かせる授業実践を行うことができた。
- ゲストティーチャーを招聘した授業や生徒をファシリテーターとしてフィールドワークに参加させる授業の開発により、新たな授業作りの可能性が広がった(地理)。
- 現代の諸課題につながる、生徒が課題意識を高める単元を開発することができた。
- 「思考力・判断力・表現力等」の評価を意識した考査問題の作成及び生徒の解答の検証並に評価の検討を行うことができた。
- コロナ禍の中での実践であったが、3年生のアンケート結果では、歴史、地理ともに全ての項目で肯定的意見の増加が見られ、学習意欲の向上を見取ることができた。
- 単元構想、評価規準の策定、教材作り、資料選びに非常に多くの時間を要した。
- 観点別評価の評価規準についての検討が十分でなかった。単元の目標と学習活動の関係を整理して、各場面の評価規準を精査し、指導と評価の計画をブラッシュアップする必要がある。
- 学校や生徒の実情に応じた教材作りが必要であることに気づかされた。
- 日々の授業においては思考力や判断力が身に付いてきたことが実感できるものの、思考力・判断力の一層の向上を図る工夫が必要である。

4 今後の取組

①地理総合、歴史総合を見据えた指導と評価の計画の作成

- ・「指導と評価の一体化」をめざして、生徒の学習改善と教師の指導改善につながるような学習評価の在り方の検討

②他教科や他機関との連携を一層進める。

- ・生徒の実態に合わせた教材作りを他教科や他機関と連携して進めていくことで、生徒の興味や理解が一層進むことが期待できる。